



「どっちが勝つても ランピストは言った

新刊はリアルなアメリカを現地レポート！

アメリカ大統領選挙の投票日は11月3日。この週刊文春が出る頃にはどうなってるのかな？ 民主党的ジョー・バイデン元副大統領が支持率優勢のまま逃げ切るか？ トランプ大統領が逆転して再選を果たすか？

トランプ起死回生の一撃かと思われたのは、投票日3週間前にNYポストに載ったバイデンのスキャンダル。バイデンの次男ハンターは2014年からウクライナのガス会社ブリスマの役員になったが、同社の顧問ヴァディム・ポザルスキーからハンターへの「父上と面会させてくれてありがとう」と書かれたEメールが発見されたというのだ。バイデン側は「副大統領時代はずべての面会が記録されている」と反論している。

オバマ政権の副大統領だったバイデンはウクライナに10億ドルの経済支援を行う際、汚職に甘かったウクライナの検事総長の辞任を求めた。だが、トランプ陣営は、ハンターの違法行為を隠蔽するためだと主張している。

今回のEメールの件は何か

ら何まで怪しきる。

ポスト紙はニューヨーク・ローカルのタブロイド紙で、夕刊フジみたいなもの。この記事を取り上げているのは、テレビではFOXニュース、新聞はウォール・ストリート・ジャーナルくらい。この3つはメディア王ルパート・マードックの所有で、共和党のプロパガンダ装置として知られている。そもそも、この件は最初、FOXニュースに持ち込まれたが、信憑性がない、と蹴られ、NYポストでも記者二人が、信憑性がない、としてバイライン（署名）を拒否している。

また、ソースが怪しい。このEメールの出どころは、バイデンが住むデラウェアのパソコン修理店で、2019年4月、修理人ジョン・ポール・マック・アイザックの店に、水をこぼして壊れたパソコンが持ち込まれたという。しかし依頼人はいつまで経つてもパソコンを取りに現れなかったので、アイザックはFBIに通報し、パソコンを提出した。その後、音沙汰が無いので、コピーしたデータを公表したという。

なぜ、ハンターのパソコン

まず、媒体が怪しい。NYタイムズ紙（こつちは一流紙だよ）がアイザックに取材した。「預かり証を書く時、パソコンを持ち込んだ客がそう名乗ったんですね」は、本当にハンター・バイデンだった？

「わかりません。見えなかつたので」

「？？？」

アイザックはLegally Blind（法定盲人）、つまり強度の弱視で、その時はメガネをかけていた。しかし、なぜハンターがパソコンを持ち込み、そのまま取りに来なかつたのか？ その客のデータを勝手に抜き取つてメディアに流したアイザックの行為は問題ではないのか？ 怪しきる。

さらに仕掛け人が怪しい。アイザックはそのEメールを最初、トランプの個人弁護士で、元NY市長のルディ・ジュリアーニの事務所に持つていった。ジュリアーニは去年、ハンターの疑惑を探るためにロシアン・マフィア二人を雇っていたことが発覚している。しかも、ジュリアーニのトランプを薦めたのはスティーヴン・バノン。トラン

プの首席戦略官だったが、「不法移民を防ぐためにメキシコとの国境に壁を築こう！」とキャラバンで集めた寄付を着服して逮捕された。何から何まで怪しきる。このEメールが本物だとはちょっと信じられない。

もし選挙でトランプが負けたらどうなるか？ 「私が負ける選挙には不正があるのでは、平和的に権力は譲らない」と彼は公言し、ペンシルヴェニアなどの接戦州の選挙が不正であると提訴する準備を進めている。その不正の証拠を集めためのボランティアをアーミー・フォー・トランプ（トランプ軍）と呼んでいる。

トランプ軍という名前はシヤレにならない。なぜならトランプの熱狂的支持者には銃で武装した過激派が多いからだ。今年1月、トランプが「バージニアで銃が規制されるぞ！」とツイートしたら武装した2万人がバージニア州府舎前に集まつた。4月にトランプが「ミシガンでビジネスを開せよ！」とツイートすると数百人が武装してミシガン州府舎内に乱入した。10月にはトランプに逆らうミシガン州知事の拉致殺害を企ん

